鹿兒島城山の蟻類に就て

理學士　矢野宗幹

今より十餘年前私は三度鹿兒島を過ぎたので、蟻類標本を採集しやうと旅館薩摩屋別莊の裏から町家の間を通つて城山の崖下に出た。其處には方數間の斜面が崖の土崩によつて出來て居たが、私は其處に蹲んで地面に活動して居る蟻を仔細に觀察して驚喜したのであつた。私は其より以前に二度蟻を採集する爲めに薩南の川邊枕崎など迄も歩いたのであるから其の地方の蟻については多少の知識をもつて居ると思つて居たのである。其が今この鹿兒島市内の一地域に於て九州とは全く離れた所に來たのではないかと云ふやうな感を起さした。何せならば其處で僅か一時間足らずの短時間の間に四五種の全く今まで内地に見なかつた所の蟻の棲息するのを知つたからである。其の後數日にして私は宮崎縣の青島、卽ち例の熱帶性植物の蕃殖地である所に數時間を費した、而して鹿兒島に得たものゝ内の二種を見出したので、此兩地の蟻相の相類似して居る事を知つたのであるが、其でも尙城山々麓にのみ發見したものが數種あつたのである。

其以來多忙にして其等の研究を試みる事が出來ず其の儘になつて居たのであるが、過日石川千代松博士に

（一）

面會の節、談城山問題に及んだので私は右の事柄を述べて、蟻類の分布から見ても城山の興味ある事を御話したのである。博士は是を三好學博士に傳へられ、かくて私は其について茲に記述する事を餘儀なくされた次第である。然し蟻類に就いては本邦に於ての研究今尙不充分であつて、只私の考へのみを以て分布などを云々するのは如何と思はれる點もあつたので蟻を專攻して居られる友人寺西暢君に之を計り、同君の研究と資料とによつて茲に豫報的に記述する事が出來たのである。此の點同君の好意を感謝する次第である。只遺憾な事には未だ其全部の種名を決定するまでの時間の餘裕が無いのであるが、其は他日兩人の何れかによつて報告する機がある事であらうし、且つ當面の問題には其の未決定も何等差支ない事と思ふのである。

（甲）城山々麓よりのみ知られて居るもの

（一）Ectomomyrmex sp.

この屬には本邦から二種知られて居る。一つは E. japonicus で、朝鮮、對馬、靜岡縣興津から知られて居るが本種は其ではない。或は臺灣からのみ知られて居る E. santeri ではないかと思はれる。兎に角內地では他から知られて居ない。

（二）Tetramorium (?) sp. ?

屬も尙多少の疑問あるもので、現在日本及臺灣からは全く知られて居ないものらしい。以上二種は現在の所全く他からは知られて居ないものであるが、何れにしても南方型のもので、少くとも其の北限をなすもの

と考へる事が出來る。

（乙）城山々麓及他の數ケ所より知られしもの

（三）Bothroponera sp.

種名は明かでない。今日知られて居る產地はこの他に宮崎縣靑島のみである。

（四）Tetramorium guineense Fabricius.

この種は廣く熱帶地方に分布するもので、臺灣琉球には產するが、內地では僅かに宮崎縣靑島、高知縣吉良川及室戸岬、和歌山縣串本等から知られて居るに過ぎない。

（五）Cardiocondyla sp.

本種は右の他、高知縣吉良川及室戸岬、和歌山縣串本から採集せられた。是に近かい種で臺灣には C. nuda mauritanica Forel が知られて居るが其とは別種である。

以上三種は鹿兒島以外の地からは知られて居るが何れも南方溫暖の地ばかりで、內地に廣く產するものとは思はれない。

其の他右と混じて棲息するもの六七種あるが其等は本邦に可なり普通に分布するものであるから茲には擧げない。以上によつて、其の地が著しく南圖的特色をもつて居ると云ふ事は明かであるが、私が特に其の場所を珍しい所だと云ふのは其の附近の他の個所と比較しての事である。勿論私は鹿兒島地方に就て餘り詳細

（三）

に調査したのでもなく、又蟻の採集は可なり困難なものであるから短時間で其の土地の蟻相の概況を明かにする事の困難な事は私の經驗から信ずる處であるから、私の發見した所以外に斯樣な特種な蟻の棲息地の有無を茲に述べる事は出來ないまでも、左樣に普通に何處にでもあるものとは信じられず又私は不幸にして他に其を發見する事は出來なかつたのである。

私の發見した所は城山の下で今日問題にされて居る樹林地ではない、其だから問題は別と云はれる方もあるかも知られないが、實を申せば私は其の樹林中では充分な調査をして居ないのであつて、其所は尙處女地であり、其に接して斯かる貴重な寶庫がありとすれば樹林中の研究の興味ある事を想像出來る。其故昔のまゝの自然狀態である間に今一層の各專門の立場からの研究の必要があり、少くとも其の調査が出來て學術的に價値がないと云ふ事が明にされない限り其の自然を破壞しないで保存して頂きたい、又若し其處が學術的價値のあるものであるならば、其は無論破壞せらる可きものではあるまい。

私は今この蟻の棲息所の生態的意義に就いての臆說を茲には述べないが然しある重要な意義のあるものとは考へて居る。決して只珍奇な蟻が居ると云ふ丈けの好事的興味で其所の價値を云々するのではない。蟻の分布と云ふ問題について重要な資料を供給するものではないかと思つて居る。其については私は尙資料を集めた上で是を發表するの機會がある事と思ふ。

私は未だ充分調査されて居ない學問上の寶庫城山の舊態の破壞せられない事を希望すると共に、鹿兒島在

任の方々が進んで大に其の研究を進められて、學術的價値を闡明せられん事を希望するものである。天然紀念物は單なる過去保存的存在ではない。學術的研究の對象として價値附けらるべきものであると信ずるからである。

和歌山城「紀府京はし」より

和歌山城は天正十三年豐臣秀吉が紀州平定の後ち紀、泉は西國要衝の地であるからこれを弟の秀長公に與へ、眞砂山が最も築城に適せるため自ら縄張を命じて工を起さしめ並に二の丸、本丸を竣成せしめた。

天正十四年秀長公は大和、郡山に居城し、其の臣桑山重晴公を城代となし城廓の外濠として東西に堀川を開鑿し紀の川及大門川と連絡する延長十町十九間を外濠として起工した。

慶長五年浅野幸長公紀州に封ぜられるや從前より一層城廓の增修をなし外廓に馬ずる廣瀬口を大手と定められた。現在の廣瀬通り丁は當時の大手通りであつた。

元和五年徳川賴宣公紀州に封ぜられてから同七年、城廓の規模を一層擴張し從來の大手たる岡口御門を現在の一之橋に改めて種々要害の場所を增築した。

大手筋一之橋の東北に位置を占むる京橋御門を中心に北方を圍いて本町となし、和歌山繁榮の基礎を造つて其の區域を擴張した。

此れがため京橋御門及び京橋は面目を一新し、橋の北詰、札の辻を起點としてこれを大阪街道とした。明治維新に至るまで參勤道路としての唯一の往還であつた。

京橋御門は最もいかめしき櫓附御門で其の兩壁には高い石垣と白壁の土塀を以て繞らされ各處に鐵砲窓を設けて防禦に備へ堀川に向つては點綴された老松が振り面白く枝を垂下して下部に雜生せる竹藪と照應して如何にも堅固な趣きを示してゐた。

殊に高藪は防備上缺る大切なものであつたから藩には藪番を置いて京橋より湊橋一帶の土堤を警戒した。さうして役人衆は常に編笠に制羽織俗にアツサキといふを着て鼠蒲鉾を寄ち腰に兩刀をたばさんで巡視したものである。……(田中敬忠)

(五)